

造林実験地設定カード

1 分類指示 2 分類番号 7

菊池 管林署 No. 9

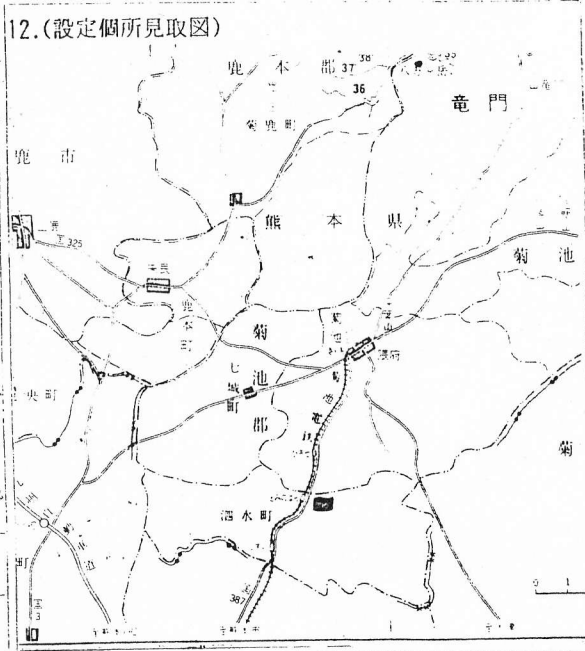
3. 実験項目 造林の初期管理における省方法。
(スギとヒノキの発根形態別成長試験)
(苗木試験) 4. 実験目的

さし木穂作り等の過程で人為的な所産を施すことにより二段根のない多枝根のように、より実生苗に近い苗木養生し、初期成長の促進、下刈作業等の省力につながる技術体系を開発する。

5. 担当区名 菊池植苗事業所 林班 35 林班 1.0 小班
 設定者(官職) 農林水産技師(氏名) 三村 孝 泰 面積 積量 (23) 25 m²
 設定年月日 昭和 56 年 月 日 終年月日 昭和 56 年 月 日

6. 実験の実施方法
 (1) 供試材料 スギ荒穂
 ① クローン系統別に検討を行なう。4クローンとする。
 ② 1クローン当たり240本とする。
 ③ 採穂 母樹の樹令等同一傾向で採穂。
 (2) 定植方法
 ① 穂作り
 ア 水浸等は通常通り
 イ 下枝の除去は手で剥き取る
 ウ 穂作り長さは普通とあり

エ 切口は通常斜切返しとする。
 オ 次の2法に分けて処理する。
 (ア) 2法... 穂の根元から枝のついていない部分にのけて茎の廻りにナイフで縦に3cm程度の長さにスズを60度で削つける。
 (イ) 3法... 2法に準じてナイフで斜めの上からスズを60度で削つける。削付の処理した穂は直ちに次の2法に分けて定植処理を行なう。
 ② 輪法... オキシロン輪刺区切傷部分を剥き取って露出部分を封じる。
 ③ 噴法... 直ちにオキシロン1000PPM液を用いて作った赤土がロケットをつける。



7. 新更	植付	新植下 天天下1.1	昭和 年 月 日
	樹種	スギ	960本
	苗木		
	ha当り 植栽本数		本/ha
8. 施肥	幼令	木	
9. 保育	下刈		
	つる	切伐	
	枝間	打伐	
10. 実験地の現況			

11. 方位	S W	標高	70 m
傾斜	平均 40度	基岩	火山灰堆積地
12. 土壌	土性	植壊土	気象
	土深度	深	
	堅密度	軟	
	湿度	潤漑	
土壌型		年平均温	16°C
土酸度		年最高温	
		年最低温	
		年降水量	1,500 ~ 2,000 mm

13. 設定時の植生
 14. その他

(記載要領) 1. 分類欄は造林実験管林署運営要綱2、(3)、(イ)、により大別し、更に分類番号欄で細別する。
 2. 設定箇所見取図は、2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
 3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業毎に記入する。
 4. 成木施肥実験の場合高林令のため施肥の経緯が不明瞭な場合は判明する範囲で記入する。

スギ之苗木の根の能別成長試験(育苗試験)

54.2.20

オキシペロン 粉剤
" 液剤

粉剤 - 下口汁 = 粉法 A法 = 傷縦1
下口汁 (200cc 液汁 4cc) = 液法 B法 = 傷横0

プラン名	処理法	略号	之L付本数	プロト位置
梟八女3号	A法 粉法	1-A-粉	60	1
"	" 液法	1-A-液	60	9
"	B法 粉法	1-B-粉	60	5
"	" 液法	1-B-液	60	13
梟致珠号	A法 粉法	2-A-粉	60	2
"	" 液法	2-A-液	60	10
"	B法 粉法	2-B-粉	60	6
"	" 液法	2-B-液	60	14
梟藤津14号	A法 粉法	3-A-粉	60	3
"	" 液法	3-A-液	60	11
"	B法 粉法	3-B-粉	60	7
"	" 液法	3-B-液	60	15
アヤスギ	A法 粉法	4-A-粉	60	4
"	" 液法	4-A-液	60	12
"	B法 粉法	4-B-粉	60	8
"	" 液法	4-B-液	60	16

見取図

プロト位置図

(4)
(3)
(2)
(1)
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

960枚

通路

造林実験地設定カード

3. 実験項目		造林の初期管理における省力法。 (スギとヒノキの発根形態別成長試験) (杯地試験)		4. 実験目的		スギとヒノキの発根形態と林地における初期成長の関係を明らかにし、下刈等保育経費の軽減をはかる技術体系を究明する。		
5. 設定	担当区名	水源 外 / 担当区		国有林 小班	字	国有林 林班	小班	
	設定者	(官職) (氏名)		面積				
	設定年月日	昭和	年	月	日	昭和	年	月
6. 実験の実施方法	1. 供試材料 アヤスギ { 多段根苗 100本 一段根苗 100本 普通苗 100本			没すことはとけるようにする。 (2) 配置については初期成長と比較することから、均等にするため1本毎に番号を付して植付せる。				
	2. 植付本数 300本 苗当り3,000本 3. 植栽方法及び配置 (1) 植付は普通植とし、上部の根が極端に下方に埋			4. 調査事項 (1) 成長量調査 植付時 5月末、7月末、9月末、11月末				
7. 更新	植付	新植 昭和 年 月 日 天下I		11. 方位	標高	m		
	樹種				傾斜	平均	度	
新	苗木			土	気	年平均	気温	
	加植当り	本/ha				土性	年最高	気温
8. 施肥	幼成			深度	象	年最低	気温	
	令木			堅密度		年降水	降水量	
9. 保育	下刈			湿度				
	つる切伐			土壌型				
10. 実験地の現況	枝間打伐			土壌度				
				土酸度				
12. (設定箇所見取図)								
13. 設定時の植生								
14. その他								

(記載要領) 1. 分類欄は造林実験営林署運営要綱2. (3)、(4)、により大別し更に分類番号欄で細別する。
2. 設定箇所見取図は2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業簿に記入する。

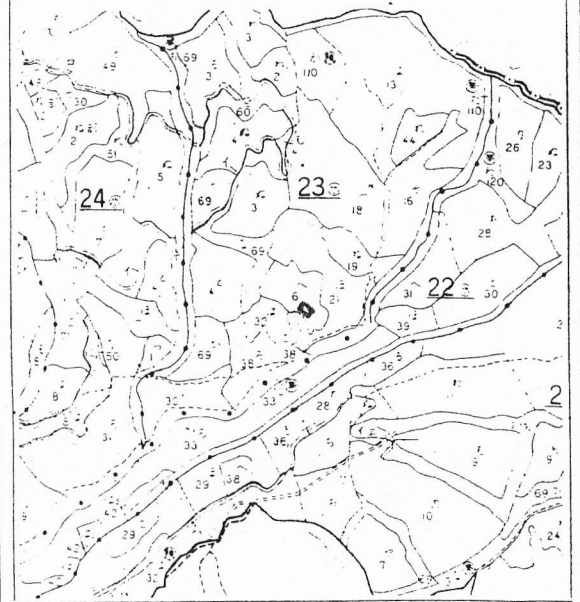
3. 実験項目 (スギとヒノキの根形態別試験)
(林地試験)

4. 実験目的

5. 設 定

担当区名	道南担当区	国有林班	字木護国有林23林班
設 定 者	(官職) 森林水産事務官 (氏名) 林 武 徳	面 積	0.10 ㊦
設 年 月 日	昭和54年3月 日	終 年 月 日	昭和59年 月 日

12. (設定個所見取図)



6. 実験の実施方法

1. 供試材料
既成苗木による供試
53年度のみ現在養成されている苗木を見かけ上から一段根(普通苗)と多段根に分類し、各々100本当供試する。この場合可能な限り同一フローシ又は苗圃を用いる。

7. 更 新	植 付	新植 昭和54年3月 日 天下一	11. 地 況	方 位	NE	標 高	730 m
	樹 種	スギ 3,57 ㊦ ヒノキ 0.80 "		傾 斜	平均 23 度	基 岩	安山岩類
	苗 木			土 性	壤 土	気	年平均気温 15°C
8. 施肥	ha 当り 植栽本数	スギ 3,000 ヒノキ 3,000 本/ha	土	深 度	中	年最高気温	
	幼 木 合 成			堅 密 度	軟	年最低気温	
9. 保 育	下 刈	54.7 57.7 55.7 58.7 56.7 59.7 6回	境	湿 度	潤	年 降 水	2,400 mm
	つ 除			土 壤 型	B D		
	枝 間			土 壤 酸 度		象	
10. 実験地の現況							

13. 設定時の植生

14. その他

(記載要領) 1. 分類欄は造林実験管林署運営要綱2.(8),(9)により大別し更に分類番号欄で細別する。
2. 設定個所見取図は2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業毎に記入する。
4. 成木施肥実験の場合高林令のための施肥の経緯が不明瞭な場合は判明する範囲で記入する。

造林実験地位置図および設定図

1.分類

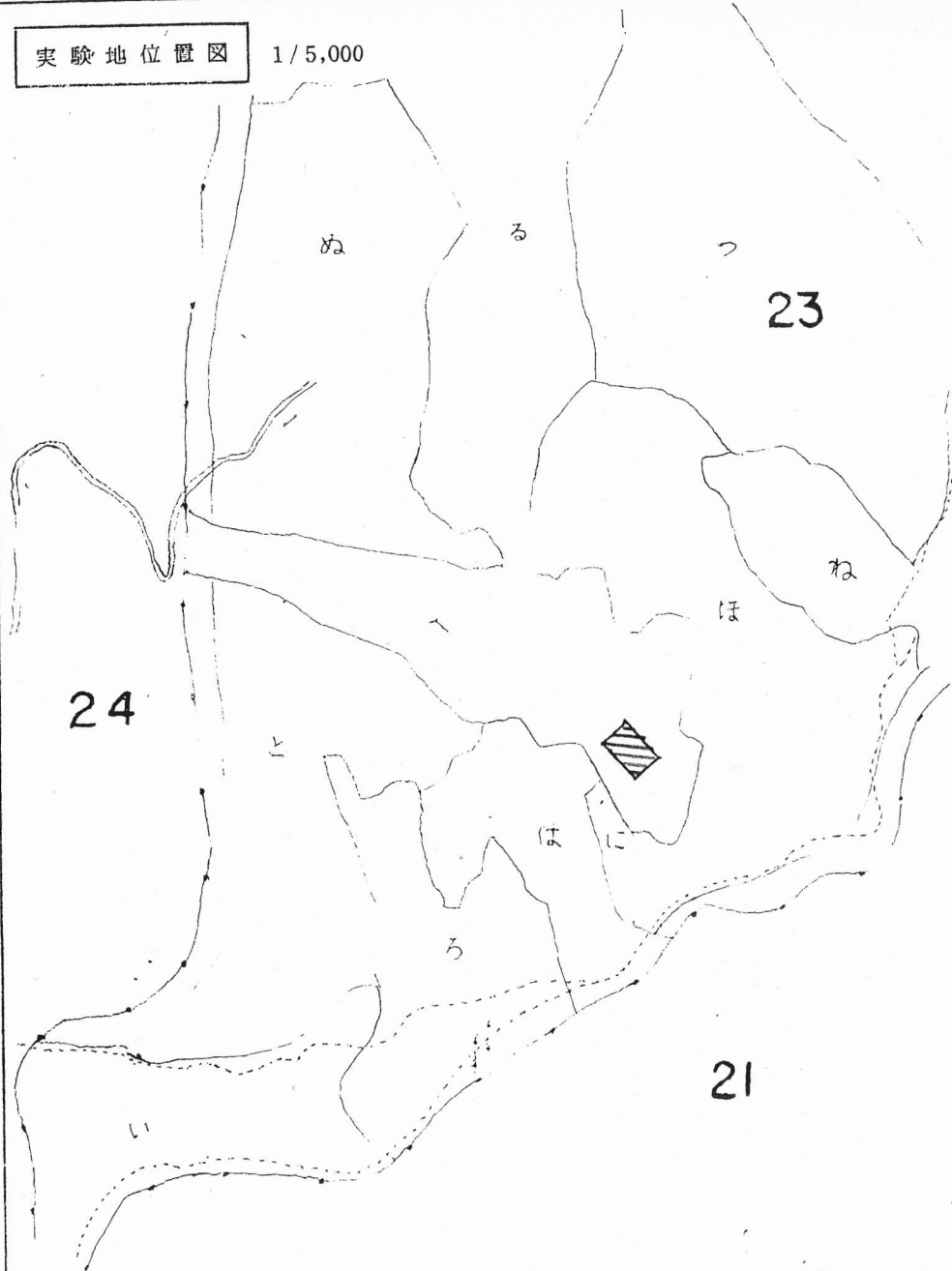
指示

2.分類別号

7-1

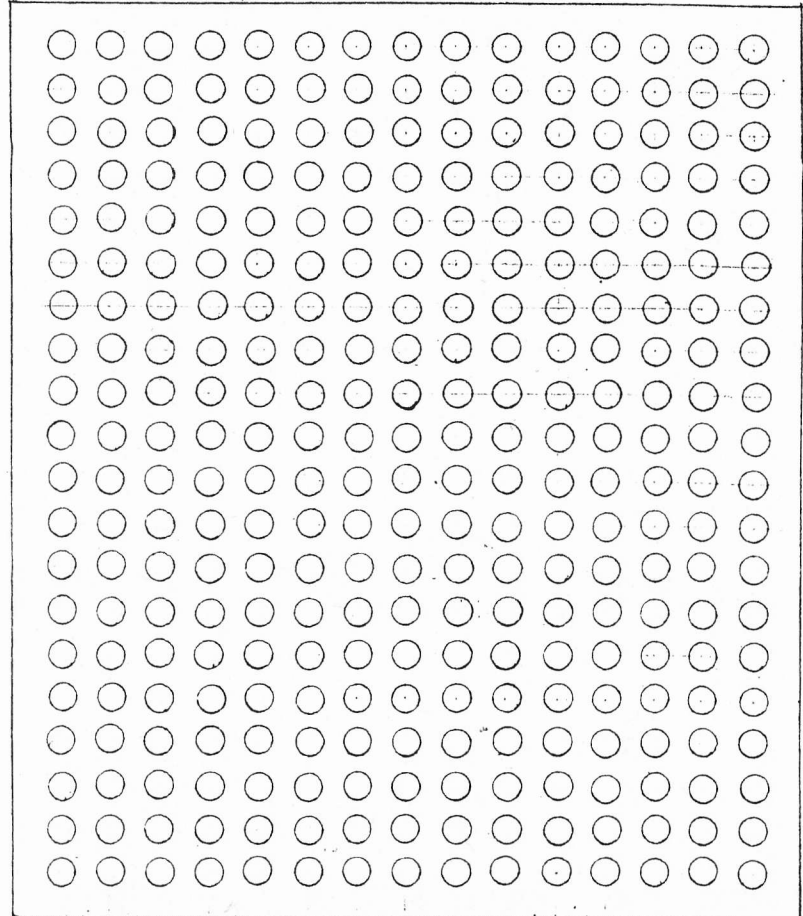
実験地位置図

1/5,000



実験地設定図

1/1,000



アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白	アヤスキ多段根 赤	アヤスキ一段根 緑	アヤスキ普通苗 白
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

造林実験地設定カード

菊池 営林署

No. 10

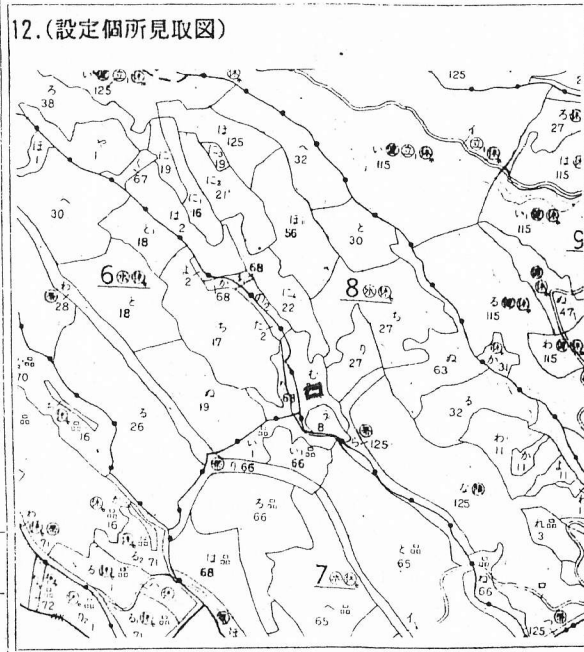
1 分類

指示

2 分類別号

クーノ

3. 実験項目		造林の初期管理における省力法 (スギとヒノキの発根形態別成長試験) (林地試験)		4. 実験目的	
5. 設定	担当区名	水源担当区		国有林	小班
	設定者(官職)	農林水産技術官	(氏名) 清藤 勝富	面積	積量
	設年月日	昭和55年3月7日	終年月日	昭和59年	月 日
6. 実験の実施方法	1. 供試材料 アサギ 多段根 40本 一段根 40本 県産津14号 " 40 " " 40 " 県産珠3号 " 20 " " 20 " 普通苗 100本 2. 植付方法 隔当り 3,500本 本数 300本				
	7. 植付	新植	昭和55年3月7日	方位	北東
8. 施肥	樹種	スギ 3,420本 ヒノキ 0,300本		傾斜	平均 15度
	苗木	ha当り	スギ 3,500本	土性	植塚土
新	ha当り	スギ 3,500本	深		
9. 保育	幼令	5.5.7	土質	堅密度	軟
	下刈	5.6.7		湿度	適
10. 実験地の現況	つる	5.7.7	土壌型	B20	
	枝打			土壌度	
11. 地況		方位		標高	920m
12. (設定箇所見取図)		傾斜		基岩	火山灰
13. 設定時の植生		気象	年平均	10°C	
			年最高	30°C	
			年最低	-10°C	
			年降水量	2,400mm	
14. その他					



(記載要領) 1. 分類欄は造林実験営林署運営要綱2、(3)、(イ)、により大別し、更に分類番号欄で細別する。
2. 設定箇所見取図は、2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業簿に記入する。
4. 成木施肥実験の場合高林令のため施肥の経緯が不明瞭な場合は判明する範囲で記入する。

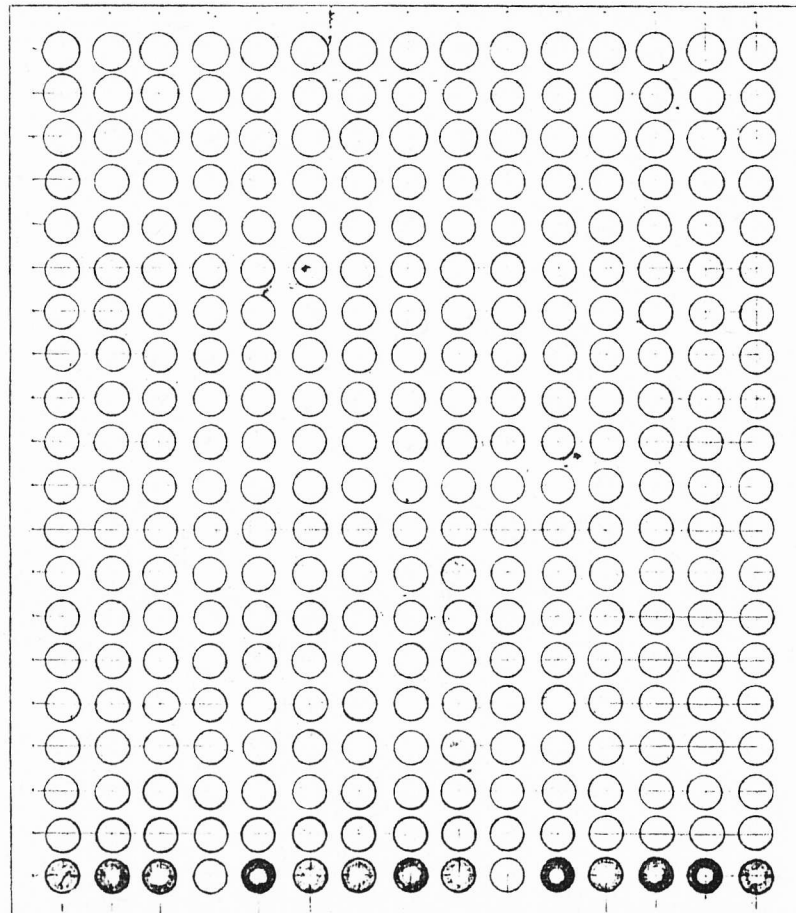
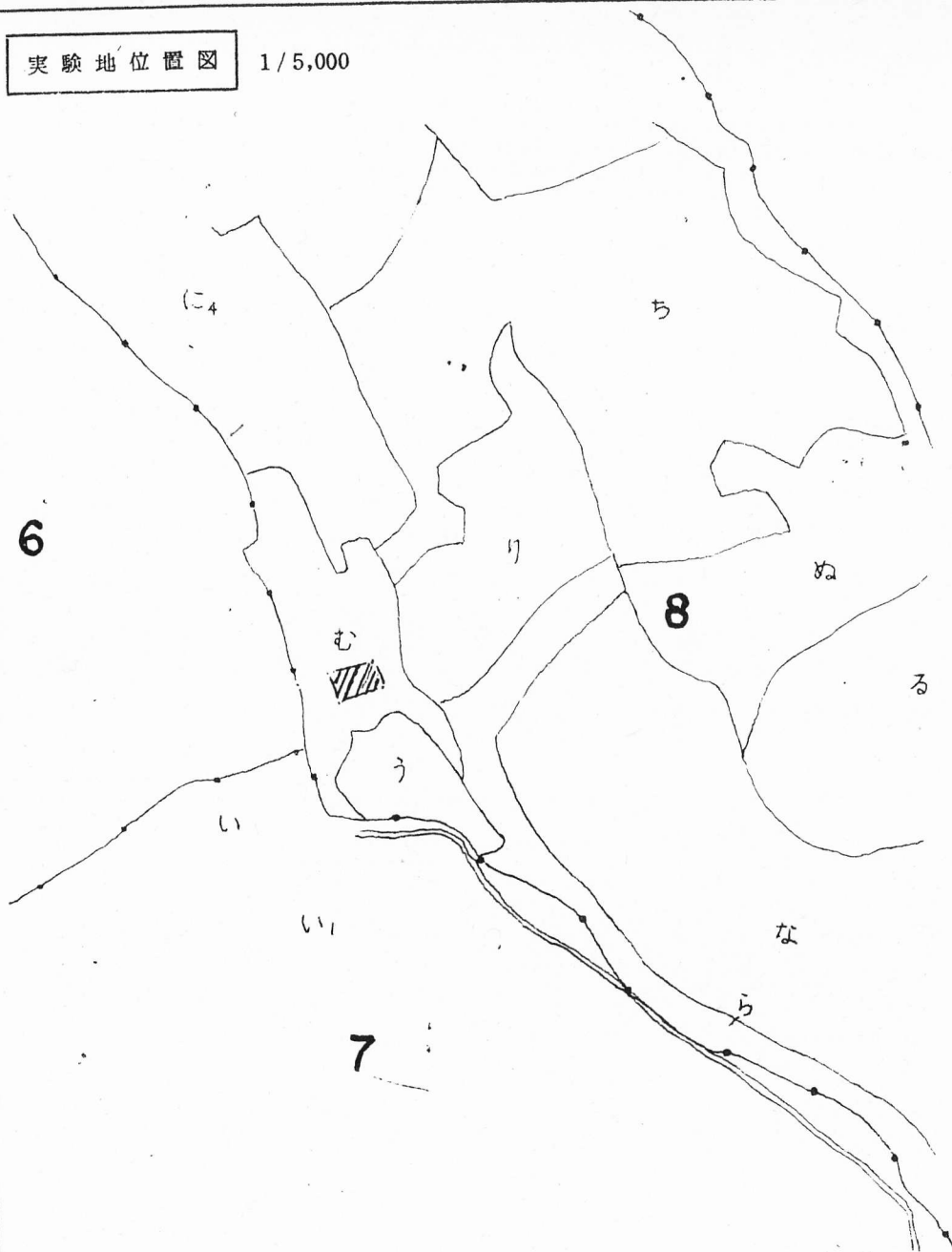
造林実験地位置図および設定図

実験地位置図

1/5,000

実験地設定図

1/1,000



アヤスギ(黄)1/5 多根根 (20)	アヤスギ(白)1/5 多根根 (20)	普通苗 (1/5 20)	果藤津(白)1/5 多根根 (20)	果藤津(緑)1/5 多根根 (20)	普通苗 (1/5 20)	アヤスギ(黄)1/5 多根根 (20)	アヤスギ(白)1/5 多根根 (20)	普通苗 (1/5 20)	果藤津(白)1/5 多根根 (20)	果藤津(緑)1/5 多根根 (20)	普通苗 (1/5 20)	果藤津(白)1/5 多根根 (20)	果藤津(緑)1/5 多根根 (20)	普通苗 (1/5 20)
---------------------------	---------------------------	-----------------	--------------------------	--------------------------	-----------------	---------------------------	---------------------------	-----------------	--------------------------	--------------------------	-----------------	--------------------------	--------------------------	-----------------

3. 実験項目 (造林の初期管理にありする省力法 (スギをシホ育の発根形態別成長試験) (林地試験))

4. 実験目的

5. 担当区名 水源 担当区 国有林 小班 阿蘇 国国有林 林班リ 小班

設定者 (官職) 農林水産 技官 (氏名) 清蔵 勝富 面積 積量 0.10 陌

設年月日 昭和 56 年 3 月 日 終年月日 昭和 59 年 月 日

6. 実験の実施方法

1. 供試木

品 種	多段根	一段根	計
アヤスキ	25 本	25 本	50 本
栗竹田 3号	25	25	50
栗阿蘇 2号	25	25	50
栗日田 20号	25	25	50
普通苗			25

2. 植付方法 普通植 陌当り 3,000 本

3. 植栽木数 2 x 5 本

7. 植付 新植 昭和 56 年 3 月 日

樹種 スギ 4.17 陌 ヒノキ 0.26 陌

苗木 ha 当り スギ 3,500 本/ha ヒノキ 4,500 本/ha

8. 施肥 幼林成 木木木

9. 保 育 下刈 54.7 57.7 58.7 SP.7 女回

つる切伐

枝間打伐

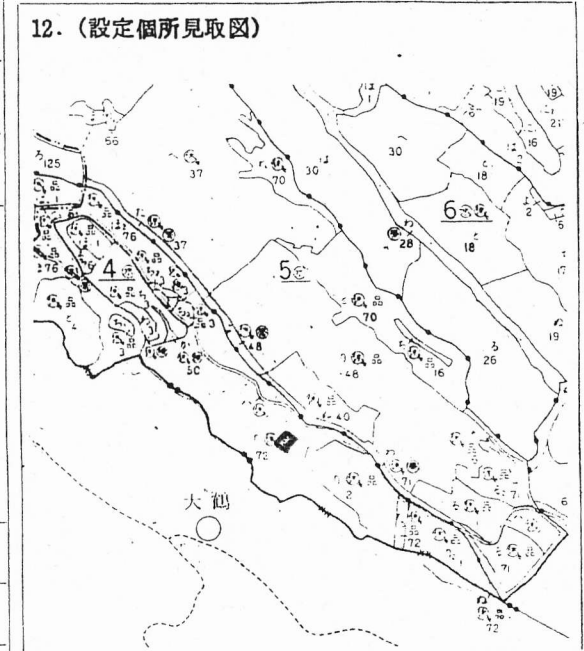
10. 実験地の現況

11. 方位 E 傾斜 平均 5 度 土性 壤土 深度 中 堅密度 軟 湿度 潤 土壌型 B D 土壌度

12. 高さ 290 m 基岩 輝石安山岩 安山岩類

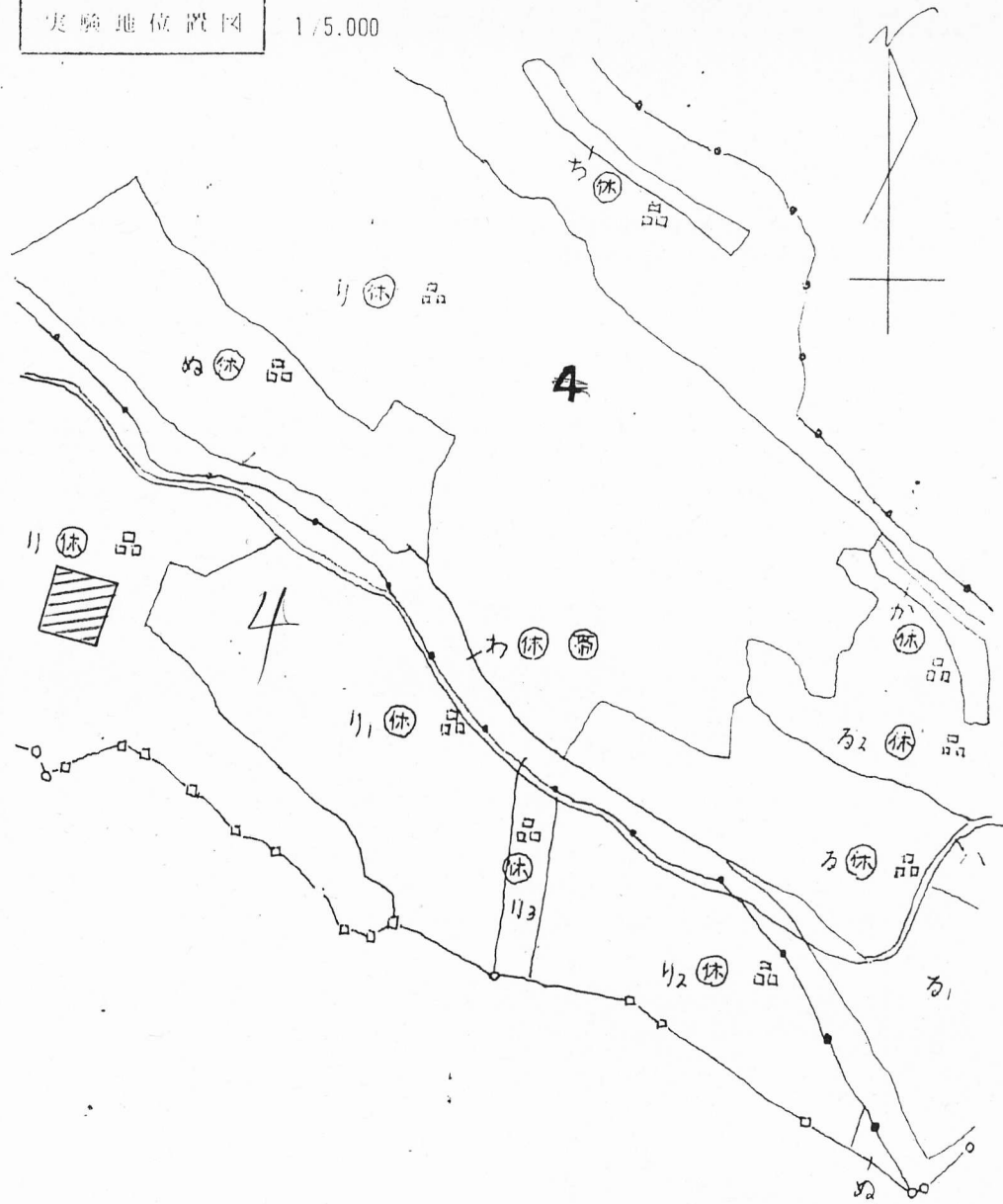
13. 設定時の植生

14. その他

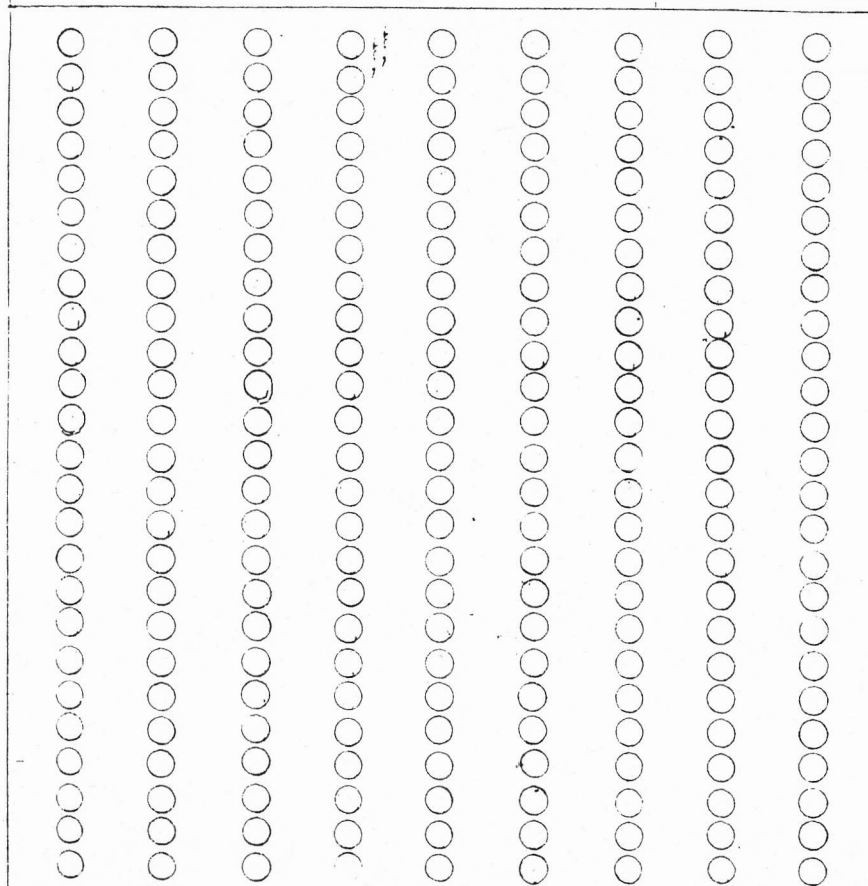


(記載要領) 1. 分類欄は造林実験官林署運営要綱, 2. (3), (4), により大別し更に分類番号欄で細別する。
 2. 設定箇所見取図は2万分の1の事業図で実験地およびプロットの設定状況が簡単にわかる程度とする。
 3. 既設造林地に実験地を設定する場合は新植から保育迄の経過を作業毎に記入する。
 4. 成木施肥実験の場合高林令のため施肥の経緯が不明瞭な場合は判明する範囲で記入する。

実験地位置図 1/5,000



実験地設定図 1/1,000



ア ヤ 二段根	ア ヤ 一段根	果竹田子号 二段根	果竹田子号 一段根	果阿蘇入号 二段根	果阿蘇入号 一段根	果日田石号 二段根	果日田石号 一段根	普通道
---------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-----

成長量調査記録カード																																									
1. 分類 指示															2. 分類別号																										
3. 実験項目 (スギとヒノキの苗木の栄養状態別成長試験)					4. 林小班 23		5. 面積 0.10		6. 樹種 スギ		7. 品種		8. 標本数 300本		9. 設定年月 54年3月																										
調査木	区	肥大成長量										上長成長量																													
		胸高(根元)径					成長量					樹高				成長量																									
		設定時	S 54年6月	S 54年8月	S 54年9月	S 54年11月	S 55年11月	S 56.11年	S 57.12年	S 58.11年	S 成長年	S 年	設定時	S 54年6月	S 54年8月	S 54年9月	S 54年11月	S 55年11月	S 56年11月	S 57.12年	S 58.11年	S 成長年	S 年																		
1	普通苗	1枚根	100本																																						
2	(6.6)	(6.6)	(7.7)	(8.5)	(9.7)	(13.4)	(26.3)	(40.1)	(55.1)	(48.5)		36.4	37.9	43.1	47.9	49.4	74.5	110.8	148.0	184.6	148.1																				
3																																									
4	普通苗	1枚根	100本																																						
5	(7.2)	(7.2)	(8.5)	(9.5)	(10.1)	(12.6)	(31.6)	(45.5)	(61.1)	(53.4)		37.6	38.9	45.2	51.0	52.2	78.9	121.6	158.2	196.7	158.1																				
6																																									
7	普通苗	1枚根	100本																																						
8	(6.2)	(6.2)	(7.4)	(8.1)	(8.7)	(15.2)	(27.8)	(39.5)	(55.7)	(49.5)		34.3	35.9	41.8	47.1	48.3	73.9	115.1	150.0	189.4	155.1																				
9																																									
10																																									
11																																									
12																																									
13																																									
14																																									
15																																									
16																																									
17																																									
18																																									
19																																									
20																																									
計																																									
平均																																									
範囲																																									
成長量指数	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	

注 1. 計測単位は、胸高径 cm、根元径 () 書 〓 とする

成長量調査記録カード

1. 分類 指示 2. 分類別号

3. 実験項目		造林の初期管理に於ける省力法 (ニラミレ木苗の根際施肥別成長試験)					4. 林小班	5. 面積	6. 樹種	7. 品種	8. 標本数	9. 設定年月									
							010	スギ	スギ	300本	55年3月										
調査木	区分	肥大成長量										上長成長量									
		胸高(根元)径					成長量					樹高					成長量				
		設定時	S	S	S	S	S	S	S	S	S	設定時	S	S	S	S	S	S	S	S	S
	55年11月	56年11月	57年11月	58年12月	59年月	59年	59年	59年	59年	59年	55年11月	56年11月	57年11月	58年12月	59年月	59年	59年	59年	59年	59年	
1	アヤスギ 1 級根	90本																			
2	(0.4) (10.5) (21.3) (40.0) (53.8)	(45.4)	54.8	62.4	105.3	148.3	188.2				133.4										
3	アヤスギ 2 級根	40本																			
4	(9.1) (11.2) (22.7) (40.6) (55.9)	(46.8)	61.3	74.0	110.4	145.3	189.8				128.5										
5	栗 疎 1 級根	40本																			
6	(0.8) (10.4) (22.8) (41.7) (55.1)	(46.3)	60.3	76.1	105.2	148.2	204.5				144.2										
7	栗 疎 2 級根	40本																			
8	(0.5) (11.0) (25.9) (44.7) (59.6)	(51.1)	57.7	76.9	109.6	160.7	218.5				160.8										
9	栗 疎 3 級根	20本																			
10	(2.8) (9.4) (21.3) (37.6) (50.9)	(43.1)	54.8	74.8	120.0	165.5	207.3				152.5										
11	栗 疎 3 級根	20本																			
12	(0.6) (11.0) (25.1) (44.2) (58.8)	(50.2)	59.1	80.7	134.3	180.9	250.2				191.1										
13	普通苗	100本																			
14	(0.9) (7.4) (14.1) (22.6) (41.9)	(34.8)	40.7	51.9	98.6	138.7	208.4				167.7										
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					
計																					
平均																					
範囲																					
成長量指数	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	

注 1. 計測単位は、胸高径 cm、根元径 () 容 ■ とする

成長量調査記録カード

1. 分類 指示 2. 分類別号

3. 実験項目		4. 林小班					5. 面積		6. 樹種		7. 品種		8. 標本数		設定年月								
造林の初期管理における省力策 (スギとヒノキの混交林の成長調査)		女)					0.10		スギ				225本		56年3月								
調査木 区 分 木	肥大成長量										上長成長量												
	胸高(根元)径					成長量					樹高					成長量							
	設定時	S 56年11月	S 57年11月	S 58年11月	S 年月	S 年月	S 年	S 年	S 年	S 年	S 年	設定時	S 57年11月	S 57年11月	S 58年11月	S 年月	S 年月	S 年月	S 年	S 年	S 年	S 年	
1	普通苗			25本																			
2		(8.1)	(13.3)	(17.5)						(8.4)		61.2	70.3	91.9							30.7		
3	栗竹田20号1段根			25本																			
4		(7.9)	(10.7)	(14.4)						(6.5)		50.3	63.1	88.0							37.7		
5				多段根						25本													
6		(8.2)	(11.9)	(16.5)						(7.3)		53.4	66.2	90.2							36.8		
7	栗竹田2号1段根			25本																			
8		(8.4)	(11.5)	(14.6)						(6.2)		54.4	64.7	85.2							30.8		
9				多段根						25本													
10				多段根						25本													
11		(8.6)	(11.9)	(15.0)						(6.4)		51.2	59.2	81.8							30.6		
12	栗竹田3号1段根			25本																			
13		(8.7)	(11.4)	(14.7)						(6.0)		51.0	61.7	78.7							27.7		
14				多段根						25本													
15		(9.0)	(11.1)	(14.7)						(5.7)		53.1	59.3	78.8							25.7		
16	アヤ不和			1段根						25本													
17		(9.3)	(11.6)	(14.4)						(5.1)		50.9	61.3	73.0							22.1		
18				多段根						25本													
19		(9.1)	(11.1)	(16.3)						(7.2)		53.1	57.0	76.7							23.6		
20																							
計																							
平均																							
範囲																							
成長量指数	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%	%	100%	%	%	%	%	%

注 1. 計測単位は、胸高径 cm、根元径 () 書 mm とする

様式 2

昭和 54 年度 技術 開発 実施 計画 報告 書

熊本 営林(支)局

課 題 目 的	継続 新規	継続	経 常 特 別	経 常	担 当	造林課	開 発 箇 所	南 城 郡 長 崎 支 庁 鹿 野 分 室	期 間	自 53 年度 至 57 年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
													物件費	発根促進剤, スライダ, 樽, 板 鋸, 鋸用器具, フィルム 40 他			千円
													役務費	スライド, 現像液 付			
													人件費	臨時	192 ^人		
													計				

全 体 計 画

実 施 経 過

当 年 度 分

実 施 計 画

実 施 結 果

評価および普及計画

1. 試験地の設定
 (1) 育苗試験
 多岐根苗を目的とした育苗
 方法
 (2) 林地植付試験
 多岐根苗の林地植付後
 の成長量等の検討

53 年度
 1. 試験地の設定
 (1) 多岐根苗の育苗を目的とした
 挿付と施肥
 (2) 既成苗の中から多岐根苗を
 選苗し、林地植付を実施

1. 試験地の設定 大分
 2. 育苗試験 --- 南城, 都城, 長崎
 3. 林地植付 --- 南城, 都城, 長崎
 大分, 鹿野
 4. 成長量調査
 5. 作業工程調査

1. 育苗試験
 スギ, 榿木をクローン別に多岐根苗の
 育苗を目的とした処理を行い,
 多岐根の発生状況を調査。
 53 年度挿付けたものについては
 54 年度調査を実施した。
 また、54 年度は前年度と同じ方法
 で育苗試験地を設定。
 2. 林地植付
 多岐根苗の林地植付後の成長状
 況を調査。
 53 年度は既成苗の中から多岐根苗
 を選苗し、植付し、54 年度調査を
 実施した。
 また、54 年度は育苗試験により
 養苗した苗木による林地植付試
 験地を設定。

苗木育成については
 特記すべき差異は
 認められないが、ま
 た評価するまでに
 いたっていない。

項目	年度	53	54	55	56	57	58
試験地設定		○	○	○			
育苗試験		○	○				
林地植付			○	○			
既成苗による 林地植付		○					
成長量調査			○	○	○	○	○
作業工程調査		○	○	○			

(指示課題)

昭和57年度技術開発実施報告書

課題	継続別 新規	継続	経常別 経常 1-ア	担当 造林課	開発箇所 長崎地 方 都 府 鹿 屋	期 間 昭和 53年度 ～ 昭和 60年度	予算 科目 目	技術 開発	経費	品名	数量	単価	金額 千円
	スギ之し苗木の発根形態別生長試験		物件費						調査用品				
目的	多段根苗は普通苗に比較し、良い初期生長を示す傾向がみられるので、 多段根苗と生長との関係の究明と多段根着苗の技術を開発する。								役務費	現像・焼付			
									人件費	臨時(基)	(11)人 30		()
									計				

全体計画	実施経過	当年度分		
		実施計画	実施結果	評価および普及計画
1. 育苗 (1) 発根促進 ① キズ付別 ② 発根促進剤 (2) 調査事項 ① 多段根苗得苗の調査 ② 生長量調査 ③ 気温及び地温 2. 林地植付 (1) 多段根苗及び普通苗の植付 (2) 調査事項 ① 活着率調査 ② 生長量調査	1. 昭和53年度 (1) 多段根苗育苗(昭和54年3月植付) 兼地、都城、長崎苗畑 (2) 既成苗の中の子多段根苗と普通苗 (し林地植付(昭和54年3月植付) 兼地、都城、長崎、大方、鹿屋。 2. 昭和54年度 (1) 多段根苗育苗(昭和55年3月植付) 長崎、兼地、大方、都城 (2) 林地植付(昭和55年3月植付) 昭和53年育苗の多段根苗を林 地植付。 (3) 育苗及び林地植付地の生長 量等の調査。 3. 昭和55～56年度 (1) 林地植付(昭和56年3月植付) (2) 昭和53～55年度植付地の生長 量調査。	1. 昭和53～55年度に林地植付箇所 についての調査 (1) 活着率調査 (2) 生長量調査 (3) 調査結果の分析	活着率及生長量調査を行った が、多段根苗と普通苗との差異 は認められなかった。	

(指示課題)

昭和59年度技術開発実施報告書

課 題	継続 計画 別	継続	経常 別 特別 経費 の 種別	担 当	担 当	長 崎 大 都 鹿	崎 池 分 城 屋	期 間	昭和 59年度 ～ 昭和 60年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経費	品名	数量	単価	金額	
												物件費	現像焼付	人件費	計	千円	
目的													調査用品				
													現像焼付				
													(基 礎 研 究)	(12)人 23		()	()
																	()
全体計画		実施経過		当年度分													
				実施計画				実施結果				評価および普及計画					
1. 育苗		1. 昭和53年度		1. 昭和53～58年度に林地植付箇所 について調査。				1. 生長量調査									
(1) 発根促進		(1) 多段根苗育苗(昭和54年3月植付)		(1) 調査結果の検討													
ア. 傷付別		(長崎, 菊池, 都城, 鹿屋苗畑)															
イ. 発根促進剤		(2) 既成苗の中の子多段根苗を選別 し林地植付(昭和54年3月植付)															
(2) 調査		(長崎, 菊池, 都城, 鹿屋苗畑)															
ア. 多段根苗の調査		2. 昭和54年度															
イ. 生長量調査		(1) 多段根苗育苗(昭和55年3月植付)															
エ. 気温及び湿度		(長崎, 菊池, 都城, 鹿屋苗畑)															
2. 林地植付		(2) 林地植付															
(1) 多段根苗及び普通苗の植付		昭和53年度育苗の多段根苗を林 地植付。															
(2) 調査事項		(3) 育苗及び林地植付の生長量等の調 査。															
ア. 活着率調査		3. 昭和55年度															
イ. 生長量調査		(1) 多段根苗育苗(昭和56年3月植付)															
		(都城苗)															
		(2) 林地植付(昭和56年3月植付)															
		昭和54年度育苗の多段根苗を林 地に植付。															
		(3) 生長量等の調査															
		4. 昭和56年度															
		(1) 林地植付(昭和57年3月植付)															
		(都城苗)															
		(2) 生長量等の調査															
		5. 昭和57～58年度															
		(1) 生長量等の調査															

指示 課題

昭和 59 年度 技術開発実施 報告書

菊池 富雄 著

課題	継続別 新規	継続	経常 指示	担 当	水原担 地(地)	開発箇所	町田作葉 85 41 林産 23.と	期 間	56 ~ 60	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
												物件費	カマナロ			千円
目的												役務費	現場-21			
												人件費		3人		
												計				
全体計画		実施経過		当 年 度 分												
				実施計画				実施結果				評価および普及計画				
<p>多段根苗は普通苗に 比較して良し初樹成長 を示す傾向がみられ この多段根苗と成長 との関係の究明と多 段根苗養成の技術 を普及す。</p>		<p>53-54年度に多段根の養成 技術として、多段根の 育成で横傷又は縦傷を 与えて、付いた多段根の 調査した。 その後54-55年度に林地に 移植実施して、一段根多 段根、対照区の成長比 較を行うため成長調査を 59年度に実施した。</p>		<p>対照地 - 一段根 多段根 対照区毎に上区、肥大 成長をそれぞれ調査実施 した。</p>				<p>54-55年度に移植実施し た対照地は755-59年度 に成長量の調査を継続し て、上区、肥大と一段根の 成長をそれぞれ調査実施 した。対照地は755-59 年度に成長量の調査を 継続し、上区、肥大と一段 根の成長をそれぞれ調査 実施した。対照地は755- 59年度に成長量の調査を 継続し、上区、肥大と一段 根の成長をそれぞれ調査 実施した。</p>								

※ (課題)欄は指示、指導管理、自主、任意、別を記入する。
目標との関連欄は、延平宮林野技術開発目標(59.総計第188号)により記号で記入する(例 1-(ア))